

第7 2次印旛地区教育研究集会
(社会科教育・中学校)

自ら課題を解決しようとする
「社会参画意識」を育むための社会科指導のあり方
～SDGs の学習とトリプルシンキングを活用した地域教材
の授業実践を通して～



佐倉市立臼井南中学校
戸田 翔大

1 研究主題

自ら課題を解決しようとする「社会参画意識」を育むための社会科指導のあり方
～SDGsの学習とトリプルシンキングを活用した地域教材の授業実践を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領等から

本研究は、新学習指導要領（平成29年告示）解説社会編の②「社会科の改定の基本的な考え方」にある、「(ウ) 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」を受けて設定している。この項目では次のような方針が示されている。

…政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについての自覚を深めることなど、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り開いていくことが強く求められている。

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、少子高齢化の課題など、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、どのような未来を創っていくのかという目的を自ら考え、よりよい社会の創り手となるための力を身につけていくことを重視している。また、その力を身に着けるためには、社会的事象に興味・関心を持ち、社会に対する知識を持つことが求められる。そのため、現代社会における諸課題に触れ、興味・関心を持ち、社会的事象に対して当事者意識を持つことを目指す活動が必要となる。更に、その先に、諸課題を解決していこうとする、主権者としての責任を果たすための能力を身に着ける活動も必要であると考え。

そこで、本研究では、自らの生活とかがわりが深いと感じられる地域教材を使用したり、SDGsの目標を取り入れたりすることで「社会的事象に対して当事者意識を持つ」ことを目指していく。また、地域教材の授業実践の中で、思考スキルを意識した学習を行うことで、「社会的事象に対して主体的にかがわり、多面的・多角的に考察する力」を身に着けさせ、よりよい社会づくりに向かう社会参画意識を高めたいと考え、本研究の主題を設定した。

(2) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見出し、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

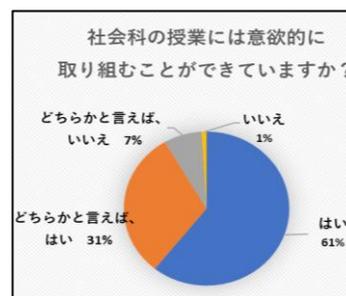
本研究は、上記の主題を受けて設定している。また、この主題は、学習指導要領の目標「国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」を受けてたてられている。「よりよい社会の実現に寄与する」ことは、まさに社会参画そのものであり、そのための「生きる力」とは複雑に絡み合った現代の社会問題に対して、自らが課題を解決する力なのではないかと捉えた。そのためには、複雑に絡み合った現代の社会問題に対して、主体的に考え、自ら課題

を解決しようとする社会参画意識を高める必要があると考えた。自ら課題を解決しようとする際には、課題の本質に迫り、他者と意見を交換し合い、多面的・多角的に考察していく活動こそが今後の社会参画に活かされるであろう。そこで本研究では、生徒の身近にある地域課題を、思考スキルを用いて主体的に考察し、自らの考えを表現することで、社会参画意識が高まることを目標として検証する。

(3) 生徒の実態から 令和4年1月20日実施 2学年(現3学年) アンケート結果より

◆社会科の授業に対して

「社会科の授業で、意欲的に活動している」と回答した生徒は80%を超え、前向きな気持ちで社会科の学習に取り組もうとする様子が見て取れる。



◆社会的事象への興味関心について (資料編 P2 資料1 参照)

世の中の出来事(新聞やニュースで見る社会で起きていること)について興味はありますか?

「はい」・「どちらかと言えば、はい」・・・71.2%

「いいえ」・「どちらかと言えば、いいえ」・・・29.8%

世の中の出来事(新聞やニュースで見る、社会で起きていること)について、自ら聞いたり調べたりしたことはありますか?

「はい」・「どちらかと言えば、はい」・・・47.5%

「いいえ」・「どちらかと言えば、いいえ」・・・52.5%

先ほどの質問で「いいえ・どちらかと言えばいいえ」と回答した人は、自ら聞いたり調べたりしない理由を書いてください。(自由記述)

- ・そこまでする必要がないと思っている(21名)
- ・面倒だと思ってしまう(20名)
- ・調べるほど、重要ではないと思っている。(7名)
- ・難しいし、自分自身が知っていても解決は難しいだろう(6名)
- ・ニュース等でだいたい理解していると思っている。(5名)

アンケート結果から、社会科の授業に意欲的に取り組むことができおり、社会的事象(特にニュース等で目にする、世界・国内の政治や経済、国際社会問題)に対する興味・関心はあるものの、自ら調べてみたり、他者に聞いてみたりする生徒は少ない傾向にあることがわかる。なぜ社会的事象を自ら調べてみたり、聞いたりしないのかを聞いてみると、その理由に関しても「面倒である・そこまでする必要はないと思っている」など、社会で起きている出来事に対する、当事者意識が低いことがわかる。

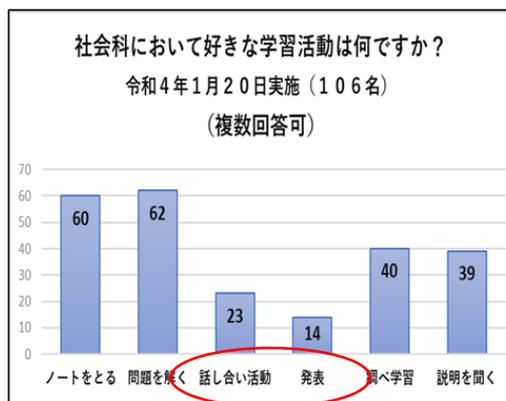
◆生徒の課題解決能力について

社会科において好きな学習活動は何ですか？（複数回答可）

*説明を聞く *調べ学習 *問題を解く *話し合い活動 *発表 *ノート作成

このアンケート結果では、本校の生徒は「問題を解くこと」や「ノート作成」に対して、意欲的である生徒が多いことが特徴的である。知識を学ぶ意欲が高いことは、授業の様子や定期テスト等の結果を見ても現れている。そのため、本校では、知識の定着は比較的安定しているように感じる。

その反面「発表すること」や「話し合い活動」に関しては、意欲的な生徒が少ない傾向にあることが覗えた。生徒が記入した理由として、以下のようなことが挙げられる。



- ・話し合う内容が難しい
- ・答えがでないから、わからないことが多い。
- ・自分たちの意見に自信がない

また、別のアンケートからも、自分の意見を表現することが苦手だという生徒が多い（資料編P3 資料1参照）ことがわかる。このように、「自分たちで考えて意見を出したり、発表したりする」活動に苦手意識を持つ生徒が多い傾向がわかった。

以上の結果から、本校では、知識・技能については一定の定着が見られるが、社会科の学習を通して、社会的事象を自身の実生活に結び付けて考えることができていないことがわかる。また、社会参画意識とは「よりよい社会を形成していこうと行動する思いや考え」である。この意識を持ち、社会的事象を自分事として捉えることで「自分と社会とはつながっている、自分も社会の一員である」と感じる事が理想であるが、本校ではそのような生徒が少ない。

また、今後の社会において、問題を解決する力、困難を乗り越える力、コミュニケーション力といった、変化の激しい時代を生き抜くための力が求められている。様々な課題を解決するために、「自分たちで話し合い、考え、意見を発表する」ことに苦手意識を持つ本校の生徒たちは、これからの激動の時代を主体的、創造的に生き抜くことが困難となるだろう。そこで、社会科の授業を通して、身近な地域の課題を主体的に考察し、自分たちの考えを表現する力を身に着けることで、生徒の当事者意識を高め、それが社会参画意識の向上へとつながると考え、授業実践に取り組んだ。

3 SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) について

SDGs は、2015 年の国連サミットで、2030 年までに持続可能なより良い世界を目指すための国際社会の目標として採択された。具体的に 17 の目標 (資料編 P4 資料 3 参照) と 169 のターゲットで構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。SDGs が必要とされる背景には、社会問題に対する危機意識が高まってきていることが挙げられる。これまでも、地球温暖化や飢餓問題などでは解決するための目標が、国内外で定められてきた。それでもなお経済成長を優先する考えが残っていたり、毎年のように、気候変動や食料不足に関する問題が生じていたりすることから、社会問題への危機意識が高まった。そこで、SDGs のような世界共通の目標の重要性が、認識されるようになってきたのである。

SDGs の目標は、教科書でも多く組み込まれるようになり、生徒にとっても、社会的事象や社会問題を捉えるツールとして、身近なものとなった。本研究では、この SDGs の目標を授業で取り入れることにより、生徒が様々な課題を身近に感じ、実生活に結び付けやすくすることで、社会的事象に向き合う主体的な態度を育みたいと考える。

4 トリプルシンキングについて (資料編 P8 資料 7 参照)

生徒が課題解決に向き合えない原因の 1 つに、「改善案・対策案が立案できない」ことがあると考えた。今までも、現代社会の課題を取り上げ、その解決方法を考える学習になると、「わからない」「解決は難しいのでは」など、後ろ向きになる生徒が多かった。そこで、課題解決案を考察していく際の考え方、いわゆる思考スキルが身につけていないと考え、トリプルシンキングを活用して課題解決学習に取り組みせることとした。トリプルシンキングとは、考える力やそれに関するスキルが数多くある中で、「ラテラル (水平的)」「ロジカル (論理的)」「クリティカル (批判的)」の 3 つを総称したものを呼ぶ (資料編 P8 資料 7 参照)。3 つの思考法は、それぞれを個別で使うよりも、組み合わせて解決案を考察することで、より精度の高いアイデアを出すことができるようになり、相手に自分達の意見を伝えることにも役立つとされる。

5 研究目標について

SDGs の目標 (ゴール) を積極的に取り入れた学習や、トリプルシンキングに基づいた、身近な地域の課題を解決するための活動型学習を取り入れることで、社会的事象に向き合う主体的な態度や、社会的事象を多面的・多角的に考察する力が身につくため、自ら課題を解決しようとする、社会参画意識を養うことができるだろう。

〔仮説 1〕

SDGs の目標 (ゴール) を授業で取り入れることにより、生徒が様々な課題を身近に感じ、実生活と結び付けやすくなるため、**社会的事象に向き合う主体的な態度**が育まれるだろう。

〔仮説 2〕

トリプルシンキングの思考スキルを採り入れた、身近な地域の課題を解決するための活動型学習を行うことで、自分なりの解決方法を考えるようになり、**社会的事象を、多面的多角的に考察し、課題を解決しようとする力**を身に着けることができるだろう。

6. 研究方法と実践

本研究の目標を達成するためには、単発的な学習活動では限界があると考えた。そのため、SDGs の授業実践を「ステップ1」、トリプルシンキングの思考スキルを採り入れた地域課題を解決するための活動型学習を「ステップ2」とし、2段階に分けて、長期的視点で生徒の社会参画意識を高めようと考えた。

(1) ステップ1：SDGs の授業実践（社会的事象に対して当事者意識を持つ）

社会科の授業で取り上げる社会的事象と、SDGs の17の目標を関連づけ、事象を捉えやすくする活動を行った。現代社会の課題は、原因や影響が非常に複雑に絡み合っている。そのため、生徒にとって、課題の解決策を考えることは容易ではない。そこでSDGsの目標と結びつけて考える学習により、「何が問題なのか、他の関連する問題は何か」について捉えやすくし、課題をより身近に感じさせ、社会的事象に対する当事者意識を向上させる狙いがある。今回ステップ1では、ステップ2の公民的分野の学習につなげるため、地理的分野・歴史的分野で実践していくこととする。（資料編P4～5 資料4・5参照）

(2) ステップ2：トリプルシンキングの思考スキルを採り入れた、地域課題を解決するための活動型の学習（積極的な社会参画意識の向上）

○地域課題について

内閣府では、平成30年度（2018年）に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」を行った（資料編P8 資料8参照）。その調査の中で、「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」に「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した日本の若者（13歳～29歳）の割合は、諸外国の若者と比べて最も低かった。このような結果を踏まえると、本研究は、社会的事象に対しての興味関心や当事者意識を持つだけでなく、社会における問題の解決に関与していく意識を持たないと、実践的な社会参画意識を持っているとは言えないだろう。そのため、社会における問題の解決に関与する経験を、社会科学習の中で取り入れていくことにより、より実践的で現実的な社会参画意識を高めることができるのではないかと考えた。

そこで、子どもにとって身近な存在であり、具体的な事実認識に基づく思考・判断の場面を設けることができる、地域教材を扱うこととした（資料編P9～11 資料9・10参照）。地域を教材化することで、現実の社会の中に自分たちの住む地域が存在することを実感し、子供たちは、自身の生活にかかわりを持ちながら問題解決を図る学習が展開できる。更に、地域の問題にとりくむことによって、地域社会の一員としての自覚も高まり、公民的資質の育成にもつながるだろうと考えた。

○トリプルシンキングの活用実践

身近な地域の課題を解決するための活動型学習の中で、後ろ向きになる生徒がでないよう、思考スキルを活用して授業を展開していく必要がある。そこで本研究では、トリプルシンキングを活用して課題解決を行う授業を計画立案するにいたった。事前のアンケートで、「発表すること」や「話し合い活動」に関しては、意欲的な生徒が少ない傾向にあることから、その原因と予想される「困り感」に対して、思考スキルを活用して解消していく。

・困り感① 「話し合う内容が難しいと感じる」 → ラテラルシンキング (水平的思考)

これは、課題解決策 (アイデア) が出てこなかったり、ありきたりの回答になってしまったりすることで、内容が難しいと感じてしまう生徒が多くなると考える。例えば、人口減少という課題を解決するための解決案として、生徒からあがった意見が「町をもっと活性化すればいい」とする。しかし、具体的な対策となっていないため、実践的な解決案とならず、生徒にとっての「社会における問題の解決に関与する経験」としては達成度が低すぎると考える。そこで「ラテラルシンキング (水平的思考)」を活用し、この困り感を解消していく。



◆『ラテラルシンキング (水平的思考) の活用』

実践 1 : 小グループで、「佐倉市にこれから必要となるもの」を考える際、「ブレインストーミングの4つのルール」を用いて、多数の意見を積極的に出し、クリエイティブな意見に近づけた。そして、多数の意見の中から、実現可能なアイデアを選択する作業を行わせた。選択する際に、自分たちが実現させたいアイデアの優先順位をつけ、次の「アイデアを具体化する活動」につなげていくこととした。(資料編 P12 資料 11 参照)

【ブレインストーミング 4つのルール】

- * 他人の発言を批判しない
- * 質よりも量 (多くのアイデアを出す)
- * 実現できるかどうかは考えず新鮮なアイデアを出す。
- * 他の人のアイデアに便乗して新しいアイデアを出す。



実践 2 : 出たアイデアを用いて「オズボーンのチェックリスト」を使用し、9つの質問に答えながら、アイデアを具体化していく活動を行った。これは、アイデアが出尽くしたり、発想力が乏しかったりするグループに対するアプローチとする (資料編 P13 資料 12 参照)。

・困り感② 「自分たちの意見などに自信がない」 → ロジカルシンキング (論理的思考)

自分たちの意見などに自信がないという原因は、課題解決案を、他人から評価される活動まで至らないことが原因である。解決策が複雑化していくと、意見等がまとまらないため、発表する活動まで到達せず、「社会における問題の解決に関与する経験」とならないため、社会参画意識が向上していかない。そこで、ロジカルシンキング (論理的思考) を活用する。



◆『ロジカルシンキング (論理的思考) の活用』

実践 1 : 本校では、小グループで話し合ったものを発表する際、準備の段階で離脱してしまう生徒が多かった。原因として考えられることは「発表原稿を考えると、なにから説明していいのかわからなくなる」、「自ら文章を考え、説得力のある説明をすることは難しい」などがあげられる。そこで、自分たちの意見や、アイデアを可視化し、常に確認できる「ロジカルシンキングシート」を作成し活用することとした。このシートでは、①テーマ、②テーマ設定の理由、③具体的なアイデア、④影響と効果の項目を設けて、作成させた。(資料編 P14~15 資料 13 ①②参照)

実践2：プレゼンという形式で発表する準備（原稿作成）を行うことで、説得力のある説明を心がけ、より論理的に考察させる狙いがある。その際、小グループで自分の担当する原稿を、グループ内の生徒に発表し、確認しながら作成することを意識させた。（資料編 P16 資料 14 参照）

・**困り感③「答えがでない課題が苦手」→批判的思考（クリティカルシンキング）**

この困り感は、大きな社会的課題となると、問題が複雑化し、解決が困難となる。そのため、生徒にとっても「現実的な解決案」とならないことで、「自分たちが考えても実現しない」と捉えてしまい、社会における問題の解決に関与する経験にならないことが原因であると考えた。そこで、生徒により現実味を持たせるために、様々な視点から物事を捉える「多面的・多角的」を意識させていく。そこでクリティカルシンキングを活用する。

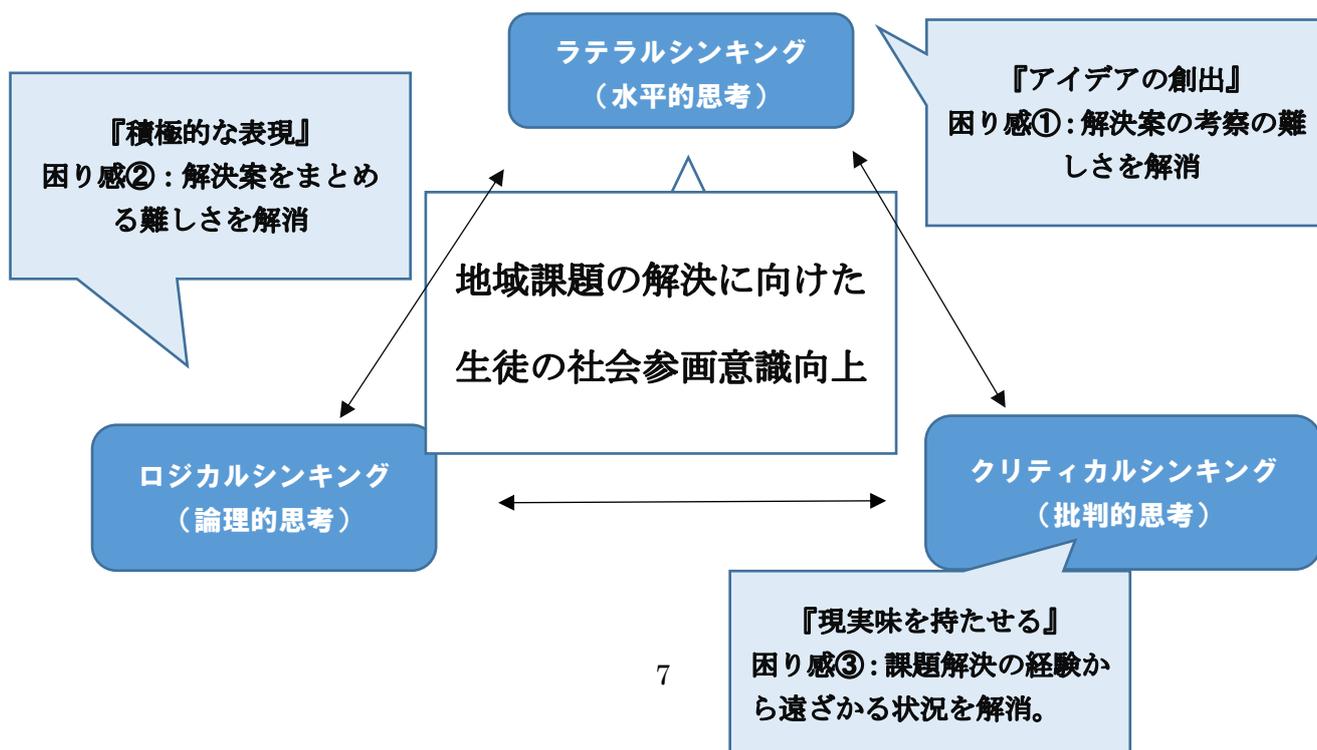


◆『クリティカルシンキング（批判的思考）の活用』

実践1：クリティカルシンキングの実践ポイントとして、

「常に目的（ゴール）を意識する」という点がある。その点において、SDGsのゴールはかなり有効的であると考えた。話し合い活動を進めていく上で、「何のために考えているのか」が明確にならず、多数のアイデアを出すだけの時間となってしまいう可能性がある。また、本研究でのSDGsの目標の活用は、社会的事象の課題をより身近に結びつけ、当事者意識を向上させる狙いが強かった。しかし、クリティカルシンキングを活用する際に、SDGsの目標自体も、「常に目的（ゴール）を意識する」という点において大きな役割を果たすのではないかと考え、活用していくこととした。

実践2：発表に対して、様々な観点を考慮しながら、「本当にこれで実現可能か」を考えさせる。発表内容を聞き、更に改善した方がよい点、疑問点などを挙げさせ、質疑応答を行う。また、プレゼン分析シート（資料編 P17 資料 15 参照）を使用し、他者の意見を批判的思考で見ることにより、現実味を感じ、真の社会参画意識を育むことができると考える。



7 仮説の検証

(1) 仮説1について

SDGsの目標(ゴール)を、授業で取り入れることにより、生徒が様々な課題を身近に感じ、実生活に結び付けやすくなるため、**社会的事象に向き合う主体的な態度**が育まれるだろう。

SDGsの目標を取り入れた学習においては、地理的分野・歴史的分野で行った。1学年の地理的分野では、アジア州の人口増加による様々な影響を、SDGsの目標と絡めて考察することで、複雑化した社会的事象の影響を明確に捉えやすくなることのできた(資料編P6 資料6参照)。更に、授業後に自分の意見や感想を書くことで、生徒の社会的事象に対する意識を確認することとした。生徒が記入したワークシートからは以下のような感想が得られた(資料編P6~7 資料6参照)。

<1学年 地理 アジア州の課題を考察する学習の感想>

- ・これらの問題は、当たり前のように見えて当たり前ではないからこそ、このように国際的な問題になっていると思った。
- ・普段私たちが行っている行動を1から見直してみる必要があると思った。

[2学年 歴史 満州事変と現在の戦争や紛争を絡めた学習の感想]

- ・他人事ではないので、日々世の中の状況を知ることが大切だと感じた。
- ・興味を持ってよく考え、自分たちの意識を変える必要があり、知ることが大切だと感じた。
- ・募金などで困っている人の助けになることをしたいと思った。

授業後の生徒のまとめや感想から、当事者意識・問題意識を持ったり、自分のできることは何かを考えたりする意見が多かった。これは、SDGsを取り入れたことにより、生徒にとって身近でなかった社会的事象を身近なものへと結びつけることにつながったと判断することができる。また、2学年の地理的分野では、生徒の意見の中で、「家で過疎集落の現状と今後の取り組みについて、国土交通省のサイトを自ら調べた」(資料編P7 資料6参照)という事実も上がった。このように、社会的事象を自ら調べてみたり、他者に聞いてみたりする生徒が少なく当事者意識が低い傾向であった本校でも、ステップ1の実践により、社会的事象に対して当事者意識が生まれたとわかるような意見や感想が多く出たため、効果的であると判断できる。

(2) 仮説2について

トリプルシンキングの思考スキルを採り入れた、身近な地域の課題を解決するための活動型学習を行うことで、自分なりの解決方法を考えるようになり、**社会的事象を、多面的多角的に考察し、課題を解決しようとする力を身に着ける**ことができるだろう。

公民分野の授業では「トリプルシンキングの思考スキル」を活用し、生徒が積極的に課題解決策を見出す活動を行った。その際、それぞれの思考スキルの活用から、以下のような効果を得ることができた。

◎ラテラルシンキング（水平的思考）

実践1 → 「ブレインストーミングの4つのルール」を活用したことで、生徒の感想からも、課題の解決策を見出すことは難しかったが、アイデアを多く出すことができたという意見が多かった（資料編 P18 資料 16 ①・②・③参照）。また付箋を使うことや、話し合いにルールがあることで、アイデアが多く出たという意見があり、ラテラルシンキング（水平的思考）が効果的であると判断できる（資料編 P19 資料 16 ⑤参照）。実際に、意見を可視化することで、「実現可能な現実的なアイデアかどうか」「そのアイデアによる効果はどれくらいだろうか」という視点を持ち、解決案を考察できた（資料編 P12 資料 11 参照）。

実践2 → 「オズボーンのチェックリスト」を活用した結果、新たなアイデアが生まれたグループがあった（資料編 P13 資料 12 参照）。このように、固定概念に捉われず、多面的・多角的に物事を考え、自由なアイデアを生み出すことができ、アイデアや解決策を見出す際の行き詰まりを突破することにつながったことが分かった。

ラテラルシンキングを活用した結果、授業後のアンケートでは、事前アンケートよりも、「社会において、好きな学習活動は何ですか？」の問いに対し、話し合い、発表と回答する生徒が増えた（資料編 P3 資料 1 参照）。そのため、今まで話し合い活動等で後ろ向きだった生徒も、課題を解決しようと積極的に活動に取り組むことができたと言えるだろう。

◎ロジカルシンキング（論理的思考）

実践1 → 生徒がまとめたロジカルシンキングシート（資料編 P14～15 資料 1 ①②参照）を見てみると、論理的に自分たちの解決策をまとめている。特に、影響と効果の項目では、「市の経済が潤い、公共事業が発達し、佐倉市が活性化する」と考えており、「住み続けられるまちづくり」を達成するための解決策を生徒が主体的に考察していることがわかる。また、課題解決の目的を見失わずに話し合いを進めることができていることも、このロジカルシンキングシートを活用した効果として考えられる。自分たちの意見を可視化することで、生徒自身が発表原稿を作る際の基盤となり、表現力を高めるためのプレゼン活動にも役立つと感想に記入している生徒もいた（資料編 P19 資料 16 ⑤参照）。

実践2 → ロジカルシンキングを活用した結果、授業後のアンケートでは、「自分の意見を表現することは得意ですか？」の問いに対し、どちらかと言えば「はい」という生徒が若干ではあるが増えている（資料編 P3 資料 1 参照）。この論理的思考スキルを意識して話し合い活動をさせることにより、自分たちのアイデアがぶれることなく説得力のあるものにすることができるため、積極的にプレゼン準備に取り組む生徒が多くなったため、社会参画意識が育まれていくと判断できる。

◎クリティカルシンキング（批判的思考）

実践1 → 多くの生徒が「住み続けられる街づくり」という目的（ゴール）を意識して話し合いがなされていた。例えば、「どの世代に着目してアイデアを考えるべきか」や「この政策で本当に住み続けられる街がつくられ、人口減少を止められるのか」を考えている班が多かった。その結果、全ての班が最終的に、テーマを作成し、プレゼンを行うことができた。よって、SDGsの目標を意識して話し合いをさせることで、「本当に実現可能か」を常に意識して現実味が増していったと考えることができる。

実践2→発表に対して、プレゼン分析シートを使用し、他者の意見を批判的思考で見ることで、「多面的・多角的に考察すること」ができていた生徒が増えた（資料編 P17 資料 15 参照）。また、更に改善した方が良い点、疑問点などを挙げさせ、プレゼンした班に投げかけた結果、「より良いものを考えるためには、幅広い世代や職業など、様々な視点から見ていくことが大事だと思った。」という感想もあり、広い視野に立って政策を考える重要性に気づき、生徒の現実味が高まっていたと判断できる（P19 資料 16 参照⑥）。その他の生徒の感想からも「この政策が実現してくれたら嬉しい」などのような意見がでたため、この思考スキルも効果的であると判断できる。

8 研究の成果と課題

〈成果〉

- ①SDGs の目標を学習に取り入れることにより、社会的事象や社会問題を明確に捉えることができるようになった。また、SDGs の目標を生徒に提示することで、自分事として社会的事象を捉える意見を増やすことができたため、当事者意識を持つことができたと判断できる。
- ②地域の課題解決案を考察する活動型学習を実践することにより、自分たちで佐倉市の現状を更に深く調べたり、知り合いから市の現状を聞いたりする生徒も現れたりした。また、トリプルシンキングの思考スキルを重点的に取り入れた結果、様々な立場の視点に立って多くの意見やアイデアを出す生徒が増え、話し合い活動を活性化することができた。これらのことから、社会的事象の多面的・多角的に考察し、主体的に課題を解決しようとする力を身に着けることができたと言えるだろう。
- ③授業実践後に生徒が書いた感想（資料編 P20 資料 16 ⑧・⑨・⑩参照）では、「もっと様々な政策を知りたい」、「大人になったら積極的に政治（選挙など）に参加していきたい」という記入があり、本研究の目標である社会参画意識が育むことができた。

〈課題〉

- ①思考スキルを活用したことにより、意見やアイデアを数多く出すことはできた。しかし、現実的な解決策となったかと言えば、まだ難しいと言えるだろう。実際に「現実的なことを考えると費用面や物理的な場所など、まだまだ考えなければならないことが多い」という感想がいくつかあがった。そのため、実際の自治体が行っている政策等を取り上げながら、生徒が考えたアイデアと現実的な解決策とを結びつけていくような手だてを行い、本研究の目標である「社会参画意識」を育てていきたい。
- ②生徒自身に、論理的思考や批判的思考のスキルがまだまだ不足しているため、どうしても解決策をまとめたり、プレゼン原稿を考えたりする際に時間がかかってしまうことが課題である。これは、日々の積み重ねでもあるため、別の活動によってそれらの思考スキルを身に着ける必要もあるのではないかと考える。
- ③話し合い活動の授業では、発言者が限られてしまう班もあり、意欲的な生徒が多い班は活発に活動できるが、そうでない班に対しては、教員が補助をしながらの活動となっていくことがあった。そうしたことで、話し合いの内容や議論の様子を把握したり、一人一人の生徒の活動を評価したりすることが難しいため、改善していく必要がある。

資料編

<生徒の実態>

- 事前アンケート結果（資料1）・・・P2～3
- 事後アンケート結果（資料2）・・・P3

<SDGsの授業実践について>

- SDGsの17の目標（ゴール）一覧（資料3）・・・P4
- 授業実践例 地理的分野（資料4）・・・P5
- 授業実践例 歴史的分野（資料5）・・・P6
- 生徒のまとめや感想（資料6）・・・P6～7

<トリプルシンキングについて>

- トリプルシンキングの説明（資料7）・・・P8
- 内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（2018年）（資料8）・・・P8

<公民的分野の実践について>

- 授業計画（資料9）・・・P9
- 生徒用プリント（資料10）・・・P10～11

【ラテラルシンキング（水平的思考）】

- ブレインストーミング 4つのルールを活用と付箋まとめ（資料11）・・・P12
- オズボーンのチェックリストと活用例（資料12）・・・P13

【ロジカルシンキング（論理的思考）】

- ロジカルシンキングシート 生徒作成（資料13）・・・P14～15
- プレゼン原稿資料 生徒作成（資料14）・・・P16

【クリティカルシンキング（批判的思考）】

- プレゼン分析シート 生徒作成（資料15）・・・P17
- 生徒の感想（資料16）・・・P18～20

<その他>

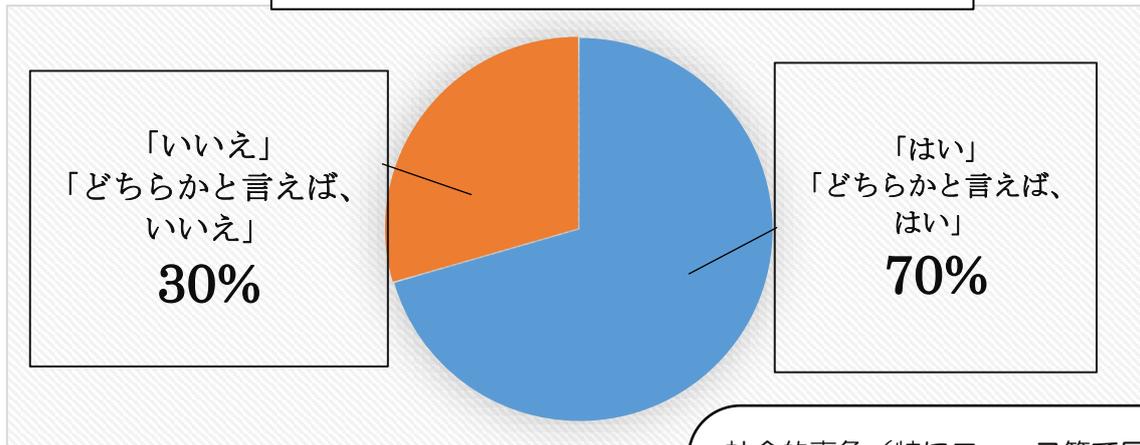
- 参考文献・参考ウェブサイト

<生徒の実態>

○事前アンケート結果（資料1）

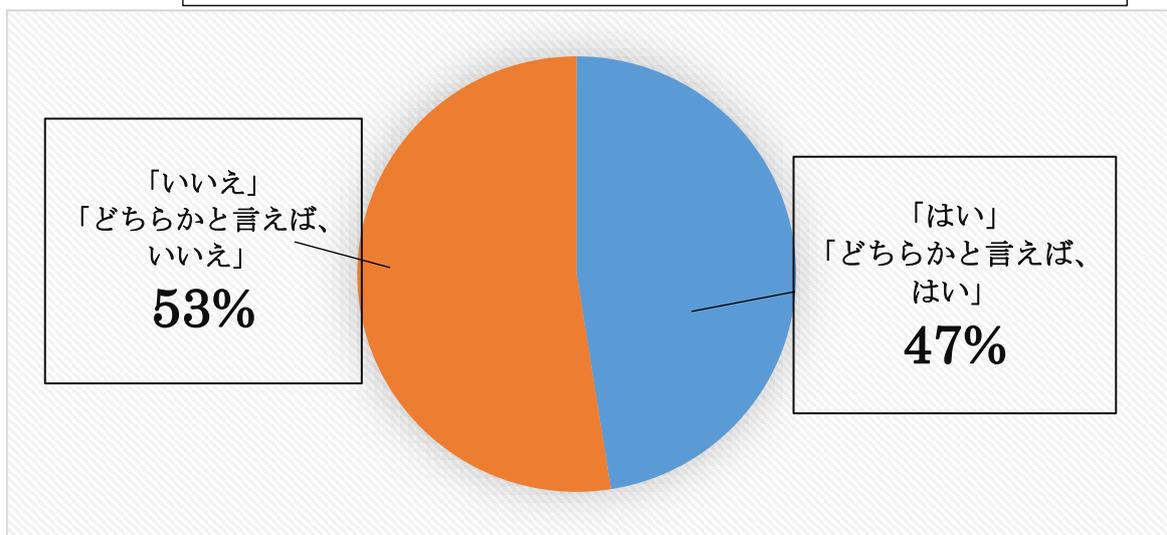
令和4年1月20日実施 2学年（現3学年）アンケート結果

世の中の出来事について興味はありますか？

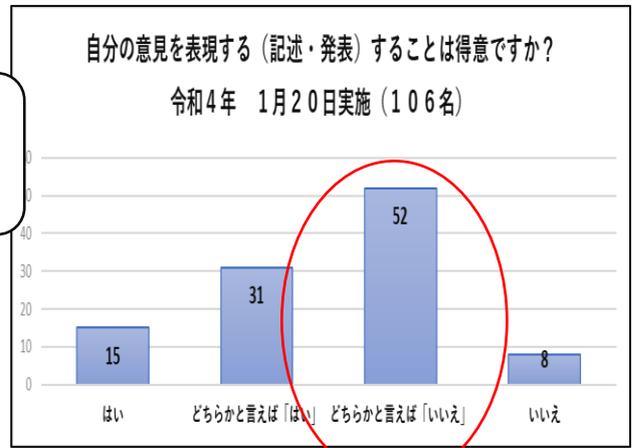
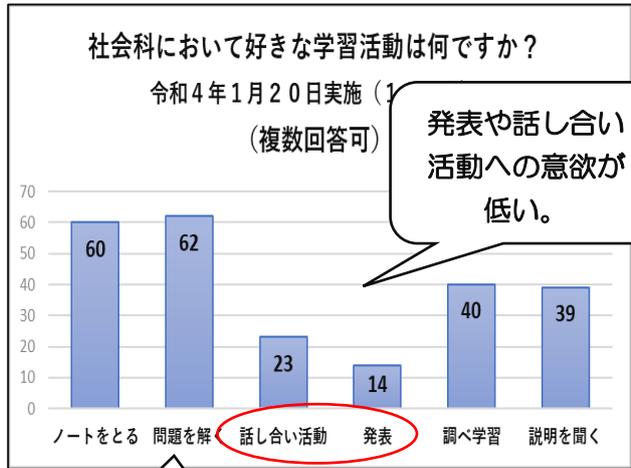


社会的事象（特にニュース等で目にする、世界・国内の政治や経済、国際社会問題）に対する興味・関心はあるものの、自ら調べてみたり、他者に聞いてみたりする生徒は少ない傾向にある。

世の中の出来事について自ら聞いたり調べたりしたことはありますか？



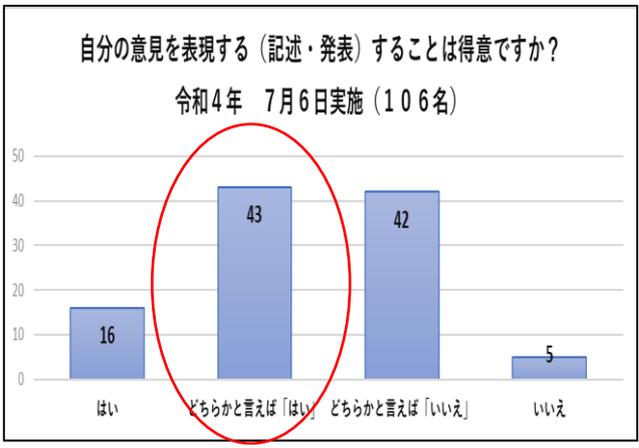
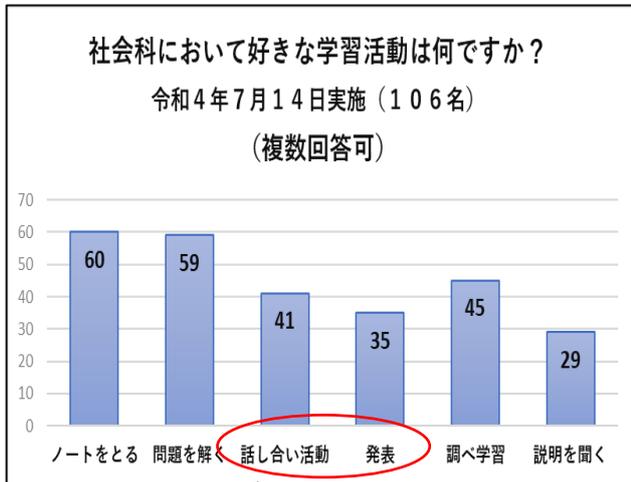
○事前アンケート結果（資料1）



ノート作成や問題を解く（知識・技能）には意欲的である。

自分の意見を表現することに苦手意識を感じている生徒が多い。

○事後アンケート結果（資料2）



若干ではあるが、発表や話し合い活動への意欲が高まった。

事前アンケートよりも、どちらかと言えば「はい」と答える生徒が増加した。

<SDGsの授業実践について>

OSDGsの17の目標（ゴール）一覧（資料3）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



事前学習として、「SDGsとはなにか」という学習も行った。

○授業実践例 地理的分野（資料4）

単元名	内容
地理的分野 「アジア州」	アジア州のまとめの学習で、「人口・居住・都市の問題」というテーマを取り扱った。課題を解決するために、どのようなことが必要かをSDGsのゴールの項目と結びつけて考えさせる。
地理的分野 「中国・四国地方」	中国・四国地方のまとめの学習で、「過疎化・交通網・産業」などのテーマを取り扱うため、「四国新幹線は必要か・必要でないか」という課題を提示する。その課題について、自らの意見をSDGsのゴールの視点を参考に考察させる。

学習内容に、現在の社会的事象を多く取り上げることができる。例えば、アジア州で学習する「人口問題、都市問題」、中国四国地方で学習する「過疎化」など、多くの教材がSDGsの目標と関連付けやすい。

○授業実践例 歴史的分野（資料5）

単元名	内容	SDGsのゴール
歴史的分野 「二度の世界大戦と日本」	「満州事変と軍部の台頭」の授業で、満州国の建国の事象を、石橋湛山の主張から日本の領土拡大政策に必要性を考察させ、「戦争＝悪」だけではなく、論理的・合理的に状況を考えることを目指す。最終的に、現在の世界情勢とゴール16・17を絡めて考察する。	 

【生徒用プリント】

満州・朝鮮半島の支配は、本当に利益を生むのだろうか？

当時、戦争に突き進む日本のなかで、石橋湛山（いしばしたんさん）はデータに基づいて領土拡大を批判した。当時、海外の領土の維持費が国家予算の1割を占め、その土地で生まれる利益を大きく上回っていた。そのため石橋湛山は、領土拡大よりも、アメリカ・イギリスなどの貿易を充実させることの方が有益であると主張した。実は、当時欧米列強も、植民地支配にかかる費用に苦しんでいた。支配を維持する費用が、現地で生まれる利益を上回っていた。

支配を維持する費用 > そこで生まれる利益

つまり、経済的な利益を求めて始まった植民地支配は、経済的にも不利益が大きくなっていたのである。

地理的分野と違い、学習内容が直接現在の社会的事象にかかわることは少ない。しかし、歴史的事象を、SDGsの目標を基に考察する学習を行うことで、複数の立場や意見を踏まえて考え、多面的・多角的に考察する力を育むことは可能である。

様々な視点から考えてみる！ なぜ日本は儲からないのに、満州へ侵攻したのか？

👁️視点①👁️ 「日本国内の状況は？」

満州事変前の日本の政治・経済状況はどのようになっていたのだろうか？

【政治】（法や政治体制など）

【経済】（国民生活など）

👁️視点②👁️ 「いつから満州地域の支配は始まった？」

👁️視点③👁️ 「世界ではこの時代、何が起きていたのか？」

【想像してみよう！】今後、私たちの生きる世界でも、このような争いや戦争が起きる可能性はある。今後、どんなことが原因で争いや戦争につながる可能性があるだろうか？自分が考える理由を、今まで学んだことを活かして書いてみよう。

考察：SDGsのゴール16・17を2030年に達成するためには、どのような考えや、行動が必要なのだろう。

更にその後、現代社会の課題と結びつけて考察し、歴史的学習自体が、現代社会の課題を解決するための考え方につながることを実感させる。

○生徒のまとめや感想（資料6）

*1学年 地理的分野「アジア州」

【 アジア 】州の地球的課題

人口・居住・都市の問題

課題を解決するためにどんなことが必要だろう？ SDGsの項目と結び付けて考えてみよう

<p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> 	<ul style="list-style-type: none">・中国やその他の国でも、機械化や人口増加の影響で気候変動に大きな影響が出始めているから。・機械化が進んだことで、工場などもたくさんできて排気ガスをたくさん排出されたことで、地球温暖化が進んでいるから、それを防ぐためには、例えば、石油などではなく再生可能エネルギーを使えばいいと思う。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>15 陸の豊かさも 守ろう</p> 	<ul style="list-style-type: none">・人口増加などで、今まではみんなが住んでいた場所など、土地が足りなくなってきたから、もっと土地を大切にしたいと思う。・人が住めればよいと考えているとどんどん土地がなくなってしまうから、もともとあった自然のことをもっと考えていべきだと思う。私たちが普段無意識に踏みつけてしまっている雑草も自然のものだから、もう少し大切にしないといけないと思う。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>2 飢餓を ゼロに</p> 	<ul style="list-style-type: none">・上に書いてある通り、アジア州の地球的課題は人口増加も関係していると思う。人口が増えるだけでは食料や住む場所など減っていく一方で、それを防ぐためには飢餓をなくす努力をしなければならないと思う。・自分たちが普段残している食べ物など、その食べ物がどれだけ大事なものなのか考える必要があると思う。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業を通して感じたこと

・これらの問題は、当たり前のように見えて当たり前ではないからこのように国際的な問題になっていると思って、いかに私たちが幸せな環境で育っているのかが分かった。普段私たちが行っている行動を1から見直してみる必要があると思ったので、まずは、私の1日の生活の仕方を見直してみることになります。

単元のまとめ学習を行ったりする際に、SDGsのゴールを提示し学習させることで、社会科の学習自体が現代社会の課題と直接つながっていることを生徒が実感し、当事者意識を高めることができた。

*2学年 地理的分野 「中国・四国地方」

このように、自らが、「国土交通省」のサイトなどを確認し、自分自身の考えとなる根拠を探したり、情報を得ようとしたりする生徒も現れた。

自分の意見
 四国地方では過疎化が進んでいて、そこで自分は新幹線をつくることで便利に行き、過疎地域も減らすことができると思う。その理由は、過疎集落の現状と今後の取り組みについて「国土交通省」のサイトを見たからだ。このサイトには、過疎地域である、高知県の中山間地域の課題や目標などが載っていた。それには、高齢化によって農家人口や医師不足など、人手不足の課題が載っていた。また、国や県からの「お金の支援」だけでなく、「人による支援」の充実も必要だということも載っていた。その課題により、食料の供給が難しいなどの問題も載っている。これらの現状から人が足りていない事がおきていると思う。だから、他府県、各都道府県、各市町村など、つながりをつくらせて人手不足をなくし、住みやすさをみんなで作っていくために必要だ、自分は思う。

*2学年 歴史的分野 「二度の世界大戦と日本」

「他人事ではない」と、ステップ1の目的である「当事者意識を高める」ことができた。

授業を通して (感じたこと・学んだことなど)

今までよりもSDGsについてよく考えられた。戦争が起るといっても他人事では無いので、日々世の中の状況を知るといことが最も大切なかもしれないと感じた。

「よく知ること」や「募金したい」など、行動に移そうという意識を確認することができた。

授業を通して (感じたこと・学んだことなど)

世界には今様々な問題があるけど、少しずつでいいから金でなくて平和になったらいいのと思った。とりあえず私は募金とかで困っている人の助けになることをしたいと思った。

授業を通して (感じたこと・学んだことなど)

歴史関係などで完全に解決するには時間がかかるかもしれないけど自分たちも、そういったことに興味を持ってよく考え、自分たちの意識を変える必要がある。よく知ることが大切だ、と感じた。

授業を通して (感じたこと・学んだことなど)

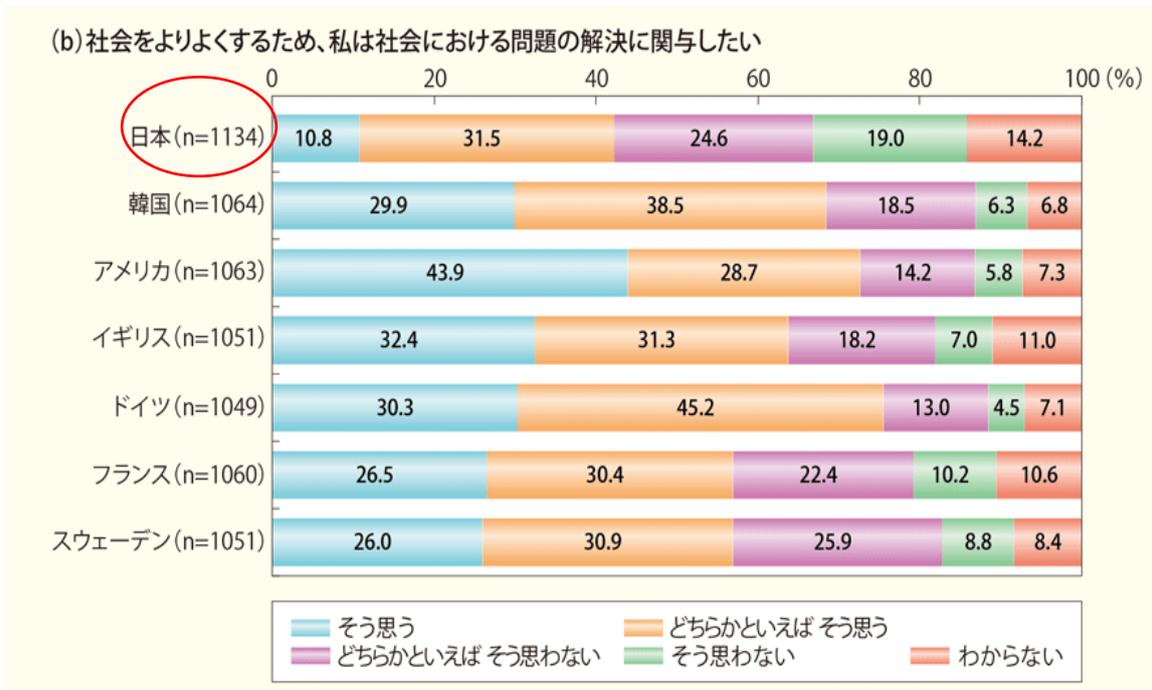
今はもう平和だから大きな戦争は起こることはない、と思うのではなく、今の様々な問題や課題などに目を向けよう、考える必要があると思った。また、国外、国内を問わず様々な情報を知ることが大切だ、と思った。

<トリプルシンキングについて>

○トリプルシンキングの説明（資料7）

思考スキル	説明
ラテラルシンキング （水平的思考）	固定概念に捉われず、様々な視点や角度から物事を考えることで自由なアイデアを生み出す思考法。これまでの考え方にとらわれず、自由なアイデアを出していくために「オズボーンのチェックリスト」や「ブレインストーミング」といった発想法を活用することもある。
ロジカルシンキング （論理的思考）	考え方に道筋を通し、主張と根拠を論理的に説明する思考法。常に因果関係を理解しながら思考する。因果関係を理解することは、何か問題が起こったり大きな壁にぶつかったりしたとき、現状を打開してどう改善すれば良いかを考えるスキルが向上する。
クリティカルシンキング （批判的思考力）	与えられた課題について、背景にある様々な観点を考慮しながら、「本当にこれでよいのか？」と問い続けて考える思考法。自分の思考の歪みや先入観などに気づくことができる上に、視点を変えたり視野を広げたりすることができるため、凝り固まった思考になることを避ける。

○内閣府、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（2018年）（資料8）



<公民的分野の実践について>

○ 授業計画 単元名 現代社会の特色と私たち「1 持続可能な社会に向けて」(資料9)

○単元の目標

- ・佐倉市の現状を踏まえて、解決策を主体的に考察し、表現している(主体的に学習に取り組む態度)
- ・プレゼンを用いて、論理的に思考し、課題解決のための具体的な政策を考えることができる(思考・判断・表現)

○指導計画(5時間扱い)

学習過程 (時配)	学習活動 ◎思考スキル	指導・支援 ○評価
つかむ (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉市の調査や市民アンケートから、現状の課題を知る。人口減少や高齢化率の上昇、若者の「佐倉市から移りたい、できれば移りたい」と回答した割合が高い現状などの課題を知り、その課題が及ぼす影響を予想する。 (資料7参照) <p>◎クリティカルシンキング(批判的思考) →SDGsのゴールを提示し目的を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐倉市が掲載している「佐倉市都市マスタープラン」から、調査や現状を視覚化し、課題を把握させる。 ・課題に対する影響を想像し、より当事者意識を持たせる。 <p>○自分の住む地域に関心を持ち、課題に対して主体的に学ぼうとしているか。(主体的に学習に取り組む態度)</p>
調べる 深める (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対するSDGsゴール⑩「住み続けられるまちづくりを」の目標を意識させながら、思考スキルを活用して課題解決のためのアイデアを考える。 <p>◎ラテラルシンキング(水平的思考) →ブレインストーミングの【4つのルール】と、【オズボーンのチェックリスト】を使用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループでアイデアを考える活動を行う。 ・アイデアに行き詰まるグループには、教員が助言をし支援していく。 <p>○課題解決のための具体的な政策を考えることができるか(思考・判断・表現)</p>
まとめ あげる (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで出てきたアイデアを、論理的に考察し、整理し、まとめあげる。 ・プレゼンという形式で発表し、他の班の発表を聞いて、評価をする。 <p>◎ロジカルシンキング(論理的思考) →ロジカルシンキングノートを活用し、まとめあげる。</p> <p>◎クリティカルシンキング(批判的思考) 発表に対して、様々な観点を考慮しながら、「本当にこれで実現可能か」を考える。発表内容を聞き、更に改善した方がよい点、疑問点などを挙げさせ、自分の意見をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめに行き詰まるグループには、教員が助言をし支援していく。 ・論理的に考察し、表現するために、生徒同士で相互に発表原稿を確認しあうよう促す。 <p>○プレゼンを用いて、論理的に思考し、課題解決のための具体的な政策を考えることができるか(思考・判断・表現)</p>

佐倉市の一員として、積極的な社会参画を目指そう！

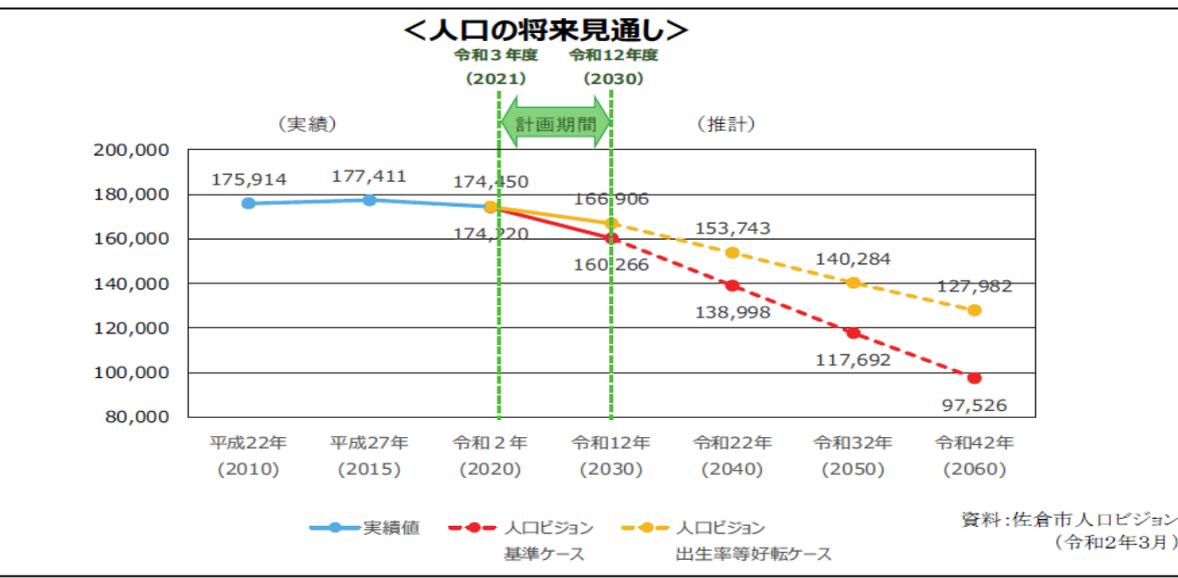
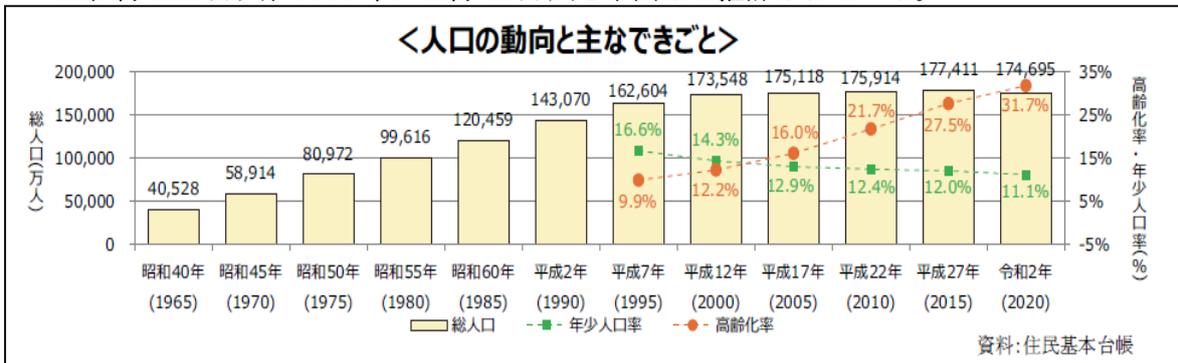
1. 佐倉市ってどんなところ?? (自分が感じる佐倉市の魅力を、自由に書いてみよう!)



2. 佐倉市の現状を見てみよう! (佐倉市の調査から)

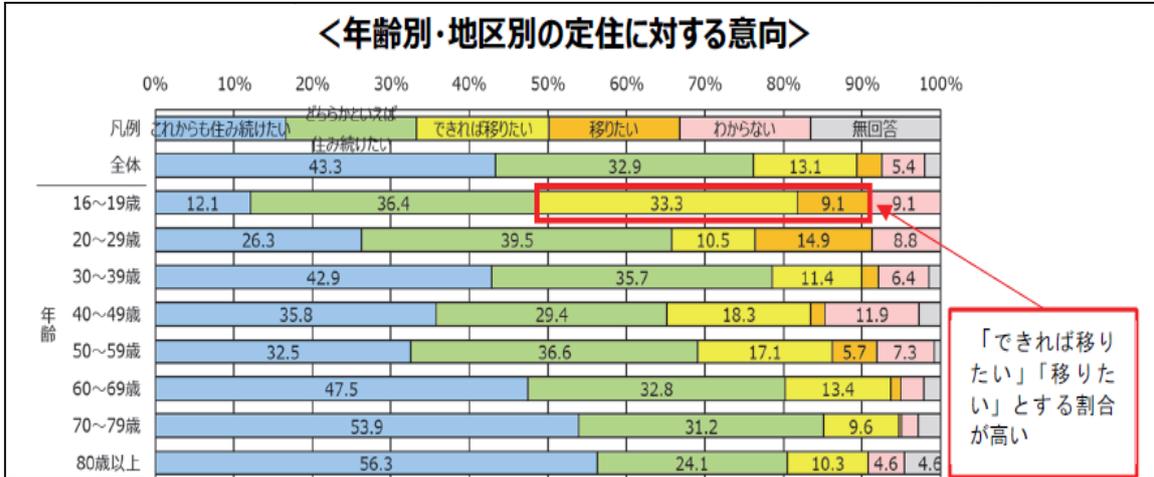
●予想される人口減少・高齢化の進行

昭和 40 (1965) 年に約 4 万人であった人口が、平成 12 年 (2000 年) には、約 17 万人と 4 倍を超える規模となったが、これ以降人口は減少傾向にある。人口が 17 万人に達した年に、12.2%であった高齢化率は、2020 年には 31.7%にまで上昇。そして、2040 年には、約 13.9 万人、2060 年には約 10 万人を下回ると推計されている。



●これからも住み続けたい！？（市民アンケート）

定住に対する意向は、多くの市民が「住み続けたい」と考えている。しかし、年齢別でみると、10歳代で「できれば移りたい」「移りたい」とする比率が、他の年齢層と比較して高く、若者の佐倉市離れが懸念されている。人口の推移と合わせて考えると、深刻な課題である。



●これからの佐倉市には、なにが必要なのだろう？

視点を参考にして、これからの佐倉市に必要なことをたくさんあげてみよう！

- 視点①：どうすれば、人が集まるのだろう？
- 視点②：どうすれば、人が佐倉市から移らずにすむのだろう？
- 視点③：どうすれば、佐倉市の少子化を食い止めることができるだろう？
- 視点④：高齢化に対しての必要な対策などはあるかな？



(自分の意見) ※箇条書きでも構いません。
これからの佐倉市に必要なことは・・・

(班での話し合い)
班で意見を出し合い、良いアイデアだと思うものを、皆で書き出してみよう！

●佐倉市を、SDGsのゴール⑾「住み続けられるまちづくり」とするために、1の話し合いで自分たちのアイデアをより具体化して、より良いものを考え、クラスでプレゼンしてみよう！



【ラテラルシンキング（水平的思考）】

○ブレインストーミング 4つのルールの活用と付箋まとめ（資料11）

・ブレインストーミング 4つのルール

- *他人の発言を批判しない
- *質よりも量（多くのアイデアを出す）
- *実現できるかどうかは考えず新鮮なアイデアを出す。
- *他の人のアイデアに便乗して新しいアイデアを出す。

課題解決策（アイデア）が出てこないという困り感①を解消するため、多数の意見を積極的に出すことを目的とし、クリエイティブな意見に近づけた。

・付箋まとめ

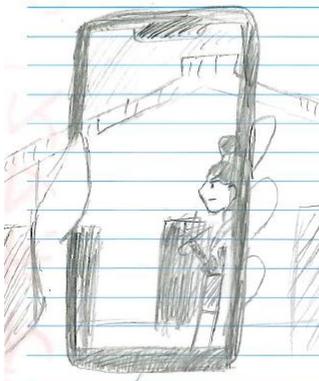
<p>アスレチックの公園</p> <p>→家族づれがたぐさみ果る</p>	<p>印旛沼のうめ立て</p> <p>→無駄な土地をなくす。</p>	<p>モジュールを運行させる。</p> <p>→利便性が上がる</p>
<p>ルパン</p> <p>→7人を集める</p>	<p>佐倉城の建設</p> <p>→歴史が感じられる。</p>	<p>シミュレーションがモジュール</p> <p>→利便性が良くなる</p>
<p>アンパンマンミュージアム</p> <p>→ファミリーを集める</p>	<p>オランダ村</p> <p>→いっぱいの人を集める</p>	<p>宇宙博物館</p> <p>→有名になる人も集まる</p>
<p>ベトナムンとニュータウンを建てる</p> <p>→家族や働き手を集められる。</p>	<p>地下鉄をつくる。</p> <p>→利便性向上</p>	<p>女妖怪ウォッチのさくらンソム</p> <p>10代-20代の世代を集められる</p>

多数の意見の中から、実現可能なアイデアを選択する作業を行わせた。自分たちが実現させたいアイデアに丸をつけ、次の「アイデアを具体化する活動」につなげていくこととした。

○オズボーンのチェックリストと活用例（資料12）

転用 他に使い道はないか？	応用 他のアイデア借りられないか？	変更 変えられる部分はないか？
拡大 大きくしてみたらどうか？	縮小 小さくしてみたらどうか？	代用 他のもので代用できないか？
置換 入れ替えてみたらどうか？	逆転 逆にしてみたらどうか？	統合 組み合わせてみたらどうか？

1つめ <スマホでタイムス>



①自分のスマホや現地にありタブレットで専用のサイトに接続。
②武家屋敷や川町史堂などの歴史的建造物にスマホをかざす。
③武工や佐藤泰然が現れる。

(AR技術)

現在ある武家屋敷などの歴史的建造物と、スマートフォンなどで可能なAR技術で『統合』しようというアイデアが生まれた。

2つめ「天倫の木炭」の知名度をあげる
やってみて思ったこと

①カラーデザインの色さ
②ストーリーが面白い
③フルボイス

かんぱんで広告を出す。
キャラの魅力を漫画にする。

歴史的建造物などの魅力を更に広げるために、現在あるスマホアプリゲームの『応用』や『代用』を考えている。

ARとは、現実世界からの情報を元に、デジタル情報を重ね合わせ、視覚的に現実を拡張して表現可能にする技術。画像や周辺の空間を認識し、現実の映像とデジタル情報を合成した映像をリアルタイムにディスプレイ上に表示する。

【ロジカルシンキング（論理的思考）】

○ロジカルシンキングシート 生徒作成（資料13 ①）

ロジカルシンキングシート

テーマ（主張 ～だと思う）
「 佐倉市の歴史の伝承 」 によって、佐倉市の人口減少を防ぐことができると思う。
テーマ設定の理由（根拠 なぜならば ～ だからだ）
なぜならば 「 佐倉市には歴史がたくさんあり、 観光業を活性化できる 」 だからだ。
具体的なアイデア（そのために ～ をする。）
そのために… 「ARを利用することや、天倫の桜（ゲーム）の知名度を あげること 」 と考えた。
影響と効果（それをすることで ～ となるだろう）
それをすることで 「 伝統の伝承ができ、市の経済が潤い、公共事業 が発達する 」 佐倉市が栄える なるだろう。
だから「（テーマ）佐倉市の歴史の伝承」が必要だ。

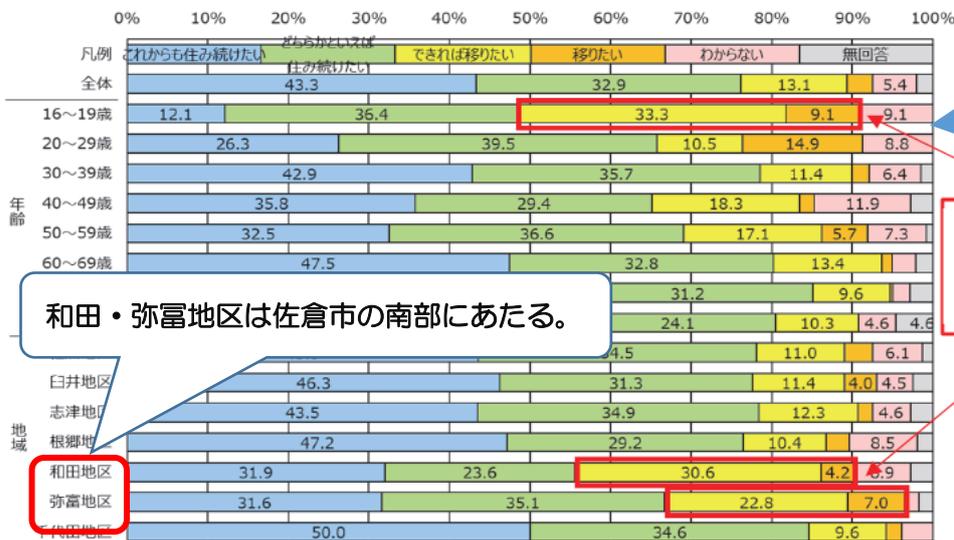
「市の経済が潤い、公共事業が発達し、佐倉市が活性化する」と考えており、「住み続けられるまちづくり」を達成するための解決策を生徒が主体的に考察していることがわかる。

ロジカルシンキングシート

テーマ（主張 ～だと思う）
「南部の発展と北部の更なる活性化」 によって、佐倉市の人口減少を防ぐことができると思う。
テーマ設定の理由（根拠 なぜならば ～ だからだ）
なぜならば 「人口減少において、特に過疎気味の南部に人を集め、同時に北部にも人を集め利便性を良くし、ベッドタウンとしての機能を充実させるため」 だからだ。
具体的なアイデア（そのために ～ をする。）
そのために… 「南土佐にのびる鉄道を建てることで、発展が乏しい南部を79人の人が住んでいる北部をつなげることで、佐倉市中の利便性向上と、北部の更なる活性化が見込める」と考えた。
影響と効果（それをすることで ～ となるだろう）
それをすることで 「東京、千葉、成田空港から近いという立地を活かしてベッドタウンに」なるだろう。
だから「（テーマ）南部の発展と北部の更なる活性化」が必要だ。

佐倉市の中でも、南部に人口が少なくなると予測。佐倉市の資料を見ていくと、予想は的中。生徒たちも嬉しくなり、自信をつけたのか、そこから話し合い活動が活性化した。

<年齢別・地区別の定住に対する意向>



和田・弥富地区は佐倉市の南部にあたる。

「できれば移りたい」「移りたい」とする割合が高い

ロジカルシンキングシートを活用することで、プレゼン原稿を考える際、スムーズに原稿を作成することが可能になった。

【テーマ】

もっとたくさんの人に佐倉市の魅力を知らせてもらおう！

【テーマ設定の理由】

これから先の未来、少子高齢化が進んでいって、若い人が少なくなってしまう。他県や他市に移住したという若者も少なくなる。また人口減少し、高齢者が増えることで、このような状況が続くと佐倉市は市として機能しなくなってしまうかもしれない。そんな危機的状況を打開するために佐倉市の魅力を市内だけでなく、市外、県外の人に知らせてもらおうと思いい設定した。

【私たちのやりたいこと！佐倉市に必要なこと！】

新ごとし

1) 佐倉市の魅力を増やすための企画、イベントを考えました。
皆さん、佐倉市の魅力は何か聞いて何か思い浮かぶでしょうか！
こう聞かれて印旛沼の隣に風車と、思い浮かぶ人もいないのではないでしょうか！
風車の花畑はチューリップで有名です。そこで僕たちはチューリップ以外でもパンジーやポピーなどの花を新しく植えて見に来る人を増やそうと(春限定)考えました。
また、春から夏にかけて佐倉市出身の長嶋茂雄ぶちっく人だ野球イベント、誰でも楽しめる景品付きのミニゲームを開催します。
他にも夏、冬、年中で開くイベントを計画しています。
夏には花火が上がりますが、この花火は佐倉市ではかなり有名だと思われま。この花火も、佐倉市の公式SNSで発信するのを市の発展につなげたいと思います。

【影響・効果】

このような企画を実行することにより、市内、市外から来る人が増えるでしょう。そこで、施設に^車駐^料車場、^乗車^料場を設けたり、施設の設置費を支援したりして、入場料の何割かを市の利益として受け取ります。そのお金で交通網を整備するなど、誰でも気軽に佐倉市に訪れる様な市に発展させることが可能です。
そして佐倉市を発展させることで佐倉市に来る人が以前より増え、佐倉市が今よりも住みやすい、笑顔あふれる市になることでしょう。

【クリティカルシンキング（批判的思考）】

○プレゼン分析シート 生徒作成（資料15）

プレゼン1：「佐倉市独自の特産品を作ってPRする」

佐倉市独自の特産品を制作することで、人が集まるのではないかというアイデアをプレゼンした。

社会科 『プレゼン分析シート』

プレゼンを聞いて、客観的な視点でその内容を分析してみましょ

【客観的な視点①】

もし、自分が佐倉市長だったら、このプレゼンのどんなことに疑問
また、どんなことを改善したり、加えたりしていききたいだろうか？

3 班のプレゼン

このような佐倉の産物を利用した商品などをどこで売るの
だろうか？また、それをつくることで本当に人口減少を防
ぐことはできるだろうか？たとえば、自分達は他に特別な特
産物を売りにしている地域かあったとしてそこに住ま
まどにいたるだろうか？これらを売りにするならば、他
の事業とセットでPRをするもいいかもしれない。

『人口減少を防ぐ』という本来の目的を見失わずに、特産品を制作することが『住み続けられる街づくり』にどうつながってくるのかという情報が不足していることに気づいた。

「他の事業とセットでPRした方がい

プレゼン2：「印旛沼をきれいにし、その周辺に体験型のテーマパークを作る」

子育て世代の人口が増えるように、子どもに対して自然体験等ができるテーマパークを、印旛沼周辺につくるというアイデアをプレゼンした。その際、まず印旛沼をきれいにしておくことを優先的に行い、その後、子どもたちに農業の収穫体験や、料理教室等を提供するアイデアを提案した。

社会科 『プレゼン分析シート』

プレゼンを聞いて、客観的な視点でその内容を分析してみましょ

【客観的な視点①】

もし、自分が佐倉市長だったら、このプレゼンのどんなことに疑問
また、どんなことを改善したり、加えたりしていききたいだろうか？

1 班のプレゼン

・農家の人と協力すると言っているが農家の人はそんな暇はないと思う。
・印旛沼をきれいにするためには多くの時間とお金が必要だと思うので、現実的
ではないと思う。

「農家と協力して」という提案にたいして、農家の立場に立って考えていた。多面的・多角的に考察することができている。

印旛沼をきれいにするための具体的な手段や費用などが明確になると、現実味が高くなることに気づいた。

○生徒の感想（資料16）

◆話し合い活動が活発化したという意見

①

かできました。また、班での話し合いでは、自分一人では考え
つかないようなアイデアを出している人がいたり、今あるものを
最大限活用するアイデアを出している人がいたり、先生の考え
が来てとても充実した話し合いができました。

様々な視点からアイデアを生み出そう
としていることがわかる。

多くの考えが生まれ、それにより生徒
の思考も深まっていく様子がわかる。

②

誰の目線から考えようかなとか、自分がそのアイデアを
出したらどうかなとか、いろいろ問題点や不安なことは
あったけれど、班員と協力してアイデアを出しあえた。

グループ内でも、活発な意見交換が
生まれていたことがわかる。

③

テーマ決めや、具体的なアイデアを話し合うときには、実現することが
できるか、も、とこうすれば良かったんじゃないかと、1人1人が意見を言い合って
話すことができた。話し合うときには、みんなの考えをメモしたりして、みんなが、

◆トリプルシンキングの重要性を感じた生徒の意見

④

アイデアを出すときに、新しい物そうみだすだけでなく、
今、佐倉市にあるものをどのように有効活用していけば、佐倉市が
より良くなっていくかを考えながら進めた。

オズボーンのチェックリストを使用した生徒の意
見。ラテルシンキング（水平的思考）が効果的であ
ると判断できる。

ブレインストーミング 4つのルールにより、アイデアが多くでたことがわかる。ラテラルシンキング（論理的思考）が効果的であると判断できる。

⑤

佐倉市の人口減少を解決するためのアイデアを考えることが
難しかった。でも、みんなを使ったリ、話し合いのルールがある
ことで、アイデアも多く出すことができた気がする。
また、自分たちの意見をロジカルシンキングシートに整理
することで、自分たちが発表原稿を作る時の
手本となり、説得力のあるプレゼンができた気がする。

ロジカルシンキングシートにより、プレゼンの原稿資料が作りやすくなった。ロジカルシンキング（論理的思考）が効果的であると判断できる。

⑥

よほど政策を考えるには幅広い世代や職業など、さまざまな視点
から見ていくのが大事なのだなと思う。その政策の中で、どんなメリット
があるのかどうか、それによって生じるデメリットまで考えるこ
とが大変だと感じた。

プレゼン後、クラスメイトから分析シートをもらった後の感想である。多面的・多角的に考察することの重要性を感じており、クリティカルシンキング（批判的思考）が効果的であると判断できる。

◆社会参画意識が高まったと判断できる感想

⑦

アイデアがでずにみんなが困
各自家で調べてきたり、教科書を見たりして、みんなが困難
をのりこえることができた。今回、この学習を通して、もちろん

家で調べてきたり、知り合いから色々情報
を掴んだりする生徒が出てきて、課題を解決
しようとする社会参画意識が高まったと判断
できる。

⑧

この活動を通して、佐倉の問題や、それをどうするか
考えることができたので、これから、ずっと佐倉に住むとしても、住
ても、地域活性化のため、ボランティアなどに積極的に
参加して行こうと思った。

自分の地域に対し
て、積極的な社会参
画意識が高まっている
ことがわかる。

⑨

今回の活動を終えて、佐倉市の
現状がよく分かった。
少子高齢化への具体的な対策を
考えたことにより、市への関心が高まり、
自分たちだけでもできることも分かったのて
これからは、佐倉市の町づくりに
積極的に参加していきたい。

政策に対する興味関心
が高まっていることがわ
かる。

⑩

佐倉市の人口減少に関わらず様々な政策を
知ることができた。今行っている政策、過去に行っていた
政策、今考えられている、発表している政策など
佐倉市の住居を知ることができた。考えた。
これ、スティーブに積極的に政治(選挙など)に参加して
自分達が自分達の住む地域をよくしていく必要があると
思った。

主体的に政治に参加する
ことについての自覚を深
めることができた。

<その他>

○参考文献

峯 明秀『「思考力・判断力・表現力」をつける中学公民授業モデル』(明治図書 2011)

峯 明秀・西口卓磨『社会科授業にSDGs挿入ネタ65』(学芸みらい社 2022)

佐々木裕子『実践型クリティカルシンキング 新装版』ディスカヴァー・トゥエンティワン
2022)

○参考ウェブサイト

「佐倉市マスター都市プラン(令和3年5月)」 佐倉市公式ウェブサイト

https://www.city.sakura.lg.jp/material/files/group/43/gaiyouban_66060639.pdf

「佐倉市人口ビジョン(令和2年3月)」 佐倉市公式ウェブサイト

<https://www.city.sakura.lg.jp/material/files/group/3/jinkoubijyon.pdf>